

授業概要

科目名		成人聴覚障害						授業の種類		演習		必修・選択		必修									
授業回数		15		回		時間数		30		時間		1		単位		配当学年時期		2年		前期			
【授業の目的・ねらい】 聴覚系、聴覚障害者等の基本的な知識、聴力検査の理論と種類、検査方法や技術、臨床的意義などを理解し、聴覚障害者に対するリハビリテーションについての理解を深める。																							
【実務者経験】 大阪府立身体障害者福祉センター病院にて、言語聴覚士として耳鼻咽喉科領域リハビリの従事経験。																							
【授業全体の内容の概要】 成人期における聴覚障害の特徴と評価・訓練・指導の基本的知識について理解できる。 情報補償と進学、就労への支援など、社会参加に向けた関連職種連携について理解できる。 国家試験に則した基礎知識を身につける。																							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚障害の特徴を理解し、典型的な症例について、リハビリテーションに必要な評価法、指導法を選択し、実施し、結果を評価できるようになる。																							
回数		講義内容																		準備物(教材)			
1		ニーズの違いと指導（成人期）																					
2		ニーズの違いと指導（中年期）																					
3		ニーズの違いと指導（老年期）																					
4		聴覚的手段（補聴器）																					
5		聴覚的手段（人工内耳）																					
6		その他の聴覚的手段																					
7		視覚的手段（文字）																					
8		視覚的手段（手話）																					
9		視覚的手段（指文字、読話）																					
10		触覚的手段																					
11		聴覚活用（補聴器、人工内耳）																					
12		聴覚活用に影響を及ぼす要因																					
13		聴取レベルと訓練内容																					
14		視覚活用（読話）																					
15		コミュニケーション方略																					
		定期筆記試験																					
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚療法 聴覚障害学』第2版 医学書院																							
【準備学習・時間外学習】 授業前後の予習復習を要します。																							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。																							